武漢の研究室で作られた？ 海鮮市場で始まった？ 新型コロナウイルスの起源は…

1/13 毎日新聞

武漢のウイルス研究所＝中国湖北省武漢市で2020年7月13日、工藤哲撮影

昨年（2024 年）私が書いた新型コロナウイルスに関するコラムのなかで、最も感想や質問が多かったのが 6 月 3 日に公開した「『新型コロナウイルスは武漢の研究室でつくられた』英米で報道された新証拠」でした。なにしろ、新型コロナウイルスは自然発生したのではなく、武漢研究所が作製した可能性が極めて高いと英国大手メディアが報道し、さらに米保健福祉省（U.S. Department of Health and Human Services＝HHS）は、米国の非政府組織が武漢研究所に送金していたことを確認し、研究所の資格を剥奪したのです。つまり、「コロナは米国が資金を出して武漢研究所でつくられたウイルス」との考えが広く信じられるようになったのです。今回はその後のこの説に関しての動きをまとめてみたいと思います。

対立する見解

24 年 12 月 2 日、米国の下院委員会は「新型コロナウイルスは自然に発生したのではなく、武漢の研究所から漏れた可能性が高い」と結論付けた最終報告書を発表しました。

ところが、科学界からは「武漢でコロナウイルスが研究されていたのは事実だが、新型コロナウイルスは研究室から漏えいしたのではなく、当初言われていたように武漢の華南海鮮卸売市場（Wuhan’s Huanan Seafood Wholesale Market）で発生した」とする意見が強くなってきています。

米国下院委員会の最終判断が「新型コロナウイルスは武漢研究室でつくられた」で、科学界からの主張が「新型コロナウイルスは動物由来で市場から生まれた」、つまり真っ向から対立しているのです。

真実はひとつのはずです。どちらが正しいのでしょうか。

新型コロナウイルスの最初の集団感染が起きたとされる市場の跡地。周囲は塀で覆われて封鎖されていた＝中国湖北省武漢市で2024年1月15日午後1時7分、河津啓介撮影

米国の資金援助で研究

ここでこれまでの流れを簡単にまとめてみましょう。まず、米国立衛生研究所（NIH）が米国の非政府組織「エコヘルス・アライアンス」に14年から5年間で総額375万ドルを助成し、その一部が「武漢ウイルス研究所」に資金援助され、コロナウイルスの研究に使われていたことは間違いなさそうです。

新型コロナウイルスが研究室でつくられたのかどうかを調査するために世界中の研究者が現地で調査することを希望しましたが、中国政府はこれを認めず、当初「新型コロナウイルスの起源の研究を目的とした中国への入国」を拒否しました。

米国のネットメディア「Intercept」がエコヘルス・アライアンスの活動を詳述する900ページ以上の文書をスクープし、そのなかに「機能獲得研究（Gain-of-Function Research）」に関する文書が含まれていました。機能獲得研究とは「コロナウイルスの病原性を強化して感染力を増加させることを目的とした研究」です。つまり、米国の資金を用いて中国で危険な研究がされていたことには証拠があるのです。

23年6月10日、英紙「Sunday Times」が、新型コロナウイルスが武漢研究所から漏えいしたことを強く示唆する記事を公開し世界中で話題となりました。記事では、「19年11月に武漢研究所でのコロナウイルスによる事故が起き、3人の研究者が新型コロナ感染を示唆する症状を発症、研究者の家族の1人が後に死亡していた」「中国でコウモリの研究をしていた英国のコウモリ専門家Alice Hughes氏は、新型コロナがアウトブレークした時、中国の治安当局に監視され、自分の研究についてメディアに話すことを禁じられ、香港への移住を余儀なくされた」「武漢研究所はウイルスだけでなくワクチン開発も手掛けていた。中心となっていたウイルス学者のZhou Yusen氏は54歳の若さで亡くなったが、武漢研究

所の屋上から転落死したとの証言がある」ことなどが暴かれました。

作られた危険なウイルス

武漢研究所でコロナウイルスの研究の最先端にいたのは「バット（コウモリ）ウーマン（Batwoman)」の異名を持つ Dr.Shi Zhengli です。Dr.Shi の研究を支援していた米国の研究者がノースカロライナ大学のウイルス学者 Ralph Baric 氏で、氏は 06 年、「DNA 組み換え・合成で生物兵器ウイルスをつくることができる」とした論文を発表しています。

さらに、Baric 氏は Dr.Shi が提供した遺伝子配列のコロナウイルスをつくり出すことに成功し発表しています。また、Dr.Shi は複数のコロナウイルスを入手し遺伝子組み換えや合成実験をしていたことも報道されています。

先述した Sunday Times によると、Dr.Shi は毒性の強いコロナウイルス 2 種で融合ウイルスを作製することに成功していたといいます。このウイルスによるマウスの致死率は 75%で、元のウイルスの 3 倍の致死性があります。このコロナウイルスは「自然界では決して出現しなかった」と考えられています。

決定的な証拠はなく

では、これが新型コロナウイルス、あるいは新型コロナウイルスの祖先なのかというと、そうではなく、新型コロナウイルスとは別の系統であることが分かっています。しかし、その後も Dr.Shi らは雲南省の洞窟等から合計 9 種のコロナウイルスを実験室に持ち込み、より病原性の高いウイルスの合成、ワクチン開発に取り組んだと報じられています。

そして新型コロナウイルスが誕生しました。

もう一度まとめなおすと、Dr.Shi を中心とした武漢研究所の研究員はコロナウイルスの研究を重ね、「機能獲得研究」にも携わり、いわば「生物兵器」をつくろうとしていたとも考えられます。そして、Dr.Shi らは極めて致死性の高い（新型コロナウイルスとは別の系統の）コロナウイルスの作製に成功しました。その後研究所で新型コロナを示唆する感染が生じ、その直後に新型コロナがアウトブレークしました。

ここまで“証拠”がそろえば新型コロナは研究室で製造されたという説が正しそうに思えますが、これらはいずれも「状況証拠」であり、この説が正しいことを証明するには「研究室で新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）が生まれた決定的な証拠」が必要です。それに、上述したマウスの致死率 75%のコロナウイルスは新型コロナウイルスの祖先でないことが分かっています。

24 年 12 月 4 日に淡路島で開催された学術会議「次のパンデミックに備える:コロナウイ

ルスの進化、病原性、ウイルス学（Preparing for the Next Pandemic: Evolution, Pathogenesis and Virology of Coronaviruses)」では、Dr.Shi 自らが登壇し「自身の冷凍庫に保管されているウイルスのどれもが新型コロナウイルスの祖先ではない」と報告しました。

市場でタヌキから感染？

一方、新型コロナウイルスがアウトブレークした 19 年 12 月から 20 年 1 月にかけて中国当局は「ウイルスの発生源は華南海鮮卸売市場だ」と主張していました。しかし、これを証明するには「動物からヒトに新型コロナが感染した」証拠が必要です。これまでこの動物がみつかっておらず、いわば「ミッシングリンク」の状態となっていました。

ところが、ついに見つかったのです。その動物の代表は「タヌキ」です。科学誌「Cell」24 年 9 月 19 日号に掲載された論文「新型コロナパンデミックの震源地における市場の野生動物とウイルスの遺伝子追跡（Genetic tracing of market wildlife and viruses at the epicenter of the COVID-19 pandemic)」に詳細が報告されています。論文によると、20 年初頭に華南市場で収集された動物の遺伝子配列が分析され、新型コロナウイルスの遺伝子と一致していたことが分かりました。該当する動物は「タヌキ、ジャコウネコ、その他の野生動物（raccoon dogs, civets, and other wildlife species)」とされています。

科学誌「Nature」も、「華南海鮮卸売市場の動物から発見された遺伝子が新型コロナウイルスの遺伝子と一致しているのだから、研究室漏えいではなく、動物由来ではないか」という論調です。

さて、我々はいったい何を信じればいいのでしょう。武漢研究所内で新型コロナウイルスがアウトブレークする前に存在していた証拠を示さない限り、研究所漏えい説が正しいとは言えません。Dr.Shi の「自身の冷凍庫に新型コロナウイルスの祖先のウイルスはなかった」という話が事実なら研究所漏えい説は否定されます。

一方、タヌキなどの動物からヒトに感染したのが事実だとしても、ヒト→タヌキ→ヒトと言う感染ルートは否定できるのでしょうか。例えば、研究所で感染した研究員が市場に赴き動物に感染させたことでアウトブレークが生じたという可能性はないのでしょうか。

これからも米国議会と科学界の対立は続くのでしょうか。ひとつであるはずの真実はいったいどこにあるのでしょう。